

高西家

江戸時代（1603—1867）には、多くの足軽（歩兵で最下層の侍）は長屋と呼ばれる複数の棟がつながった家に住んでいました。しかし、繁栄している加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川）では、足軽には庭付き一戸建ての家が割り当てられました。このインセンティブは、経済的機会とともに足軽にとって加賀を魅力的なものにしたと考えられます。

高西家は、隣にある清水家と並び、金沢においてもっとも古い足軽の一戸建て家の一つです。1994年に解体され、金沢市足軽資料館に移転されるまでは、もとの住人だった足軽の子孫たちが住んでいました。高西家は以前、飛脚のために指定された地区にありました。飛脚とは、荷物から為替、通信に至るまでさまざまなものを運ぶ配達人で、その速さと独自の走り方で知られていました。江戸時代の比較的平和の時代には、「飛脚」は足軽の主な仕事だった。

高西家では、足軽の組織や生活、居住地、住居などを詳しく学ぶことができます。隣の清水屋では、日々の生活や活動に関する紹介をしています。